

平成28年度第2回二次電池部会を開催

平成29年2月16日、辰巳部会長（株）GS ユアサ）を議長に、平成28年度第2回二次電池部会を開催した。会議に先立ち「BAJ競争法コンプライアンスルール」に則り議事運営をする宣言がなされたのち、部会長及び専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会の代表者より活動報告が行われた。



1. 辰巳部会長挨拶

最近、我々二次電池部会で取り扱っている「鉛電池」に対する世界的な“風当たり”が厳しいものがある。二次電池部会の中でも、特に環境規制・規則で

ご活躍をいただいているセクションにはご苦勞をかけている。また昨今、保護主義が横行しているが、我々の訴えるべきところは訴えていきたい。



2. 共通総合委員会及び各委員会の活動報告と活動計画

1) 広報総合委員会

報告者：大道委員長

- ・今年度は従来からの取り組みに加え、乳幼児の電池「誤飲防止」を消費者に向けて広くPRした。
- ・「手作り乾電池教室」の開催期間の延長と実施回数を29から37ヶ所に増やし啓発の拡大を行った。
- ・HPや冊子「WE LOVE DENCHI」改訂版にも乳幼児の電池誤飲防止のページを作成し啓発を継続する。
- ・来年度はでんちフェスタでのノウハウを生かし、「エネルギー体験教室」を試験的に導入し新たな啓発を試みる。

2) 国際環境規制総合委員会

報告者：宮本委員長

- ・4つの地域（欧州・北米・アジアオセアニア・中南米）に分割して各タスクチームが情報収集活動をしている。
- ・欧州議会の環境委員会が10/13に水銀規則を可決、水俣条約に含まれる全製品が禁止対象に変わった。
- ・北米地区 米国国家規格協会ANSIに水銀含有法令の一覧表があり、販売禁止等の州の記載もあった。
- ・アジア地区 12/27日本で水俣条約国内法規制の技術的事項検討会の事業者ヒアリングがあり、各業界が自主ガイドラインの説明をした。

BAJ情報提供に批判的なコメントもあったが、主張の合理性が認められた。

- ・来年度は9月にリスボンでのICBR国際会議に参加、またアジア地区での環境法規制・リサイクル状況についても視察する。
- ・「世界の電池環境規制の状況」の改訂版として、追補電子版を発行する予定。

3) 自動車用電池委員会

報告者：池ノ谷委員長

- ・2016年度を休会とした理由3点の説明があった。
- ・今後の活動としては、必要に応じ開催し（定期開催しない）、委員会組織は存続させる。
- ・H29年度は、委員長・副委員長の交代（任期2年）を予定している。

4) 資材委員会

報告者：佐野委員長

- ・定期的な委員会を開催していない。資材委員及びBAJ・他の委員会からの要求に応じ開催する。
- ・3/末に委員会の開催を予定。活動課題の確認と来年度からの委員長・副委員長を選任する。
- ・（傘下の）資材分科会は3ヶ月毎に活動している。共用金型の管理や供給不安部品の調達などを審議。

5) 自動車用鉛電池リサイクル委員会

報告者：尾崎委員長

- ・新自主スキームの運用状況、SBRA排出事業者登録状況、リサイクル実績等と下期の活動が報告された。
- ・登録件数は12/末で8,327件（増減は+88件）、業種別分布の傾向も変化なし。部共販とタイヤ関連で略半分。
- ・自治体や運送業が増傾向、またガソリンスタンド・車解体業は相変わらず関心低い。
- ・引き続き有価取引が圧倒的に優勢かつ韓国への輸出が持続する中、本システム扱い量は、対前年比減少が略確実な状況。
- ・昨年6月の韓国内2次精練摘発後も韓国向け輸出は衰えず、約4割（推定）の再生鉛資源が流出している。
- ・これに関連し行政がバーゼル法/廃掃法の見直

しを開始。別紙「バーゼル法一部改正の告示案」を2月に発行した。

- ・告示案の、特に2.(2)の①にある「30日以内で回答なしの場合は同意したとみなす」では骨抜き規制になる恐れがある。
- ・告示案では、施行は6/1からとなっており、3/8までパブコメを受付。BAJ又はどの立場でパブコメを出すか否か指示願いたい。

6) 技術委員会

報告者：蛭田委員長

- ・主な活動テーマ（進捗～今後対応）と重要テーマ3件の報告事項について説明。
- ・IEC62902 各電池の識別記号表示で、鉛電池はグレー表記となった。BAJとしてグレー表記のガイドラインを作成する。今後ファイナルドラフトは2018年発行予定。
- ・JISD5301の改訂はWGを設置し、IEC60095-1と整合を取りながら、また都度自技会と協議し改正を進める。
- ・SBAは8件の改正審議中。
- ・重要テーマの内、IEC60095シリーズの改正・新規制定を進めているが、2018年6月に規格発行のスケジュールで進んでいる。
- ・「形」「型」を使った電池名称の表現はガイドラインを発行準備する。その後SBA規格化を図る。「形」「型」の表記変更は各社HPや取説など多岐に関係するので、ランニングチェンジで願いたい。

7) PL委員会

報告者：植中委員長

- ・始動用バッテリーの爆発事故件数（16/上まで）の調査集計の年度推移等の報告があった。
- ・総件数は2010年以降減少傾向、用途別ではトラックの占有率が高止まり状態。原因は「液切れ」が依然多い。
- ・関係官庁（国交省）・団体（都トラック協会、

日本RV協会）への安全啓発の説明・活動などの説明があった。

- ・船舶事故防止のための安全啓発活動支援として、2018年度リーフレットの作成を目指し海上保安庁と調整し進める。
- ・補機（二輪）用LIBの誤使用による火災が市場で増加（5件）しており、安全啓発活動の検討が課題である。

8) 産電リサイクル委員会

報告者：廣川委員長

- ・広域認定の変更（維持）の状況説明と、回収量増のため広域認定での回収PRのリーフレットの活用状況の説明があった。
- ・各社営業部門の広域認定の認識は高まっている。回収量の増加につながっていないのが今後の課題である。
- ・別表にて、据置電池の2012～2016年度12月までの回収量の推移とVRLAの2016年度の回収量について説明された。

9) 環境委員会

報告者：福島委員長

- ・独Oeko研の調査報告書によりEUでの自動車用鉛バッテリー適用除外継続の見通しとなったが、「3～5年後見直し実施」とも記載され、今後も動向を注視する。自動車メーカーとの連携強化し、適用除外維持の活動を模索していく。
- ・欧州REACH規制で、鉛系化合物4種の付属書14への収載勧告の対応や世界各国の「鉛」規制の動き他が報告された。
- ・OSHA2015/12レターで「鉛蓄電池は“Not Article”」との新見解へのSDS対応として説明がなされた。
- ・来年度は関連する法規や各種情報等の状況から、今までの年2回開催から2ヶ月毎の開催頻度とする予定。

平成28年度第4回一次電池部会を開催

平成29年2月15日、佐野部会長（ソニー）を議長に、平成28年度第4回一次電池部会を開催した。冒頭、佐野部会長よりBAJ競争法コンプライアンス・ルールに則り部会進行する旨の宣言がなされたのち、専務理事の挨拶、続いて事務局報告があった後、各委員会の代表者より活動報告があった。



1. 淡路谷専務理事挨拶

1月に恒例の賀詞交歓会があり、経済産業省三浦課長からの挨拶の冒頭で、熊本地震の時の迅速な電池供給に対するお礼があった。ご協力いただいた会社にご改めて感謝申し上げます。

昨年は、熊本地震の後、鳥取や福島でも比較的大きな地震が起こっている。それに関連して、経済産業省から「大きな地震が起これば、所管業界に対

し、情報収集を行うこととする。」と新たな指針が出ている。東京23区内・・・震度5強以上、その他地域・・・震度6弱以上

情報とは会社の工場被害、サプライチェーンの障害等の有無であり、救援物資については別途連絡するとのこと。工場被害情報や救援物資の要請は今まで通り、BAJから会員会社に発信するのでよろしくお願いしたい。

2. 審議事項

1) 各専門委員会の平成28年度活動報告と平成29年度事業計画について

(1) ボタン電池回収推進委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・ボタン電池回収の協力店数は、1月の定期回収の一斉配信で既に閉店していた店が判明し、退会店の増加もあったが、1月末での協力店数は前年度末から増加した。



- ・回収量は、旧缶との入れ替えのあった9月以外は前年を上回る。昨年は前年比で減少した1月も、今年増加した。累計の回収重量は、既に昨年の年間実績を超えた。
- ・水俣条約締結後の動向注視と対応：12月27日の水俣条約対応技術的事項検討会の事業者ヒアリングでBAJは情報提供に関する自主ガイドラインを報告、これで国内法制化対応は一段落した。今後は無水銀の統一マークの検討、自主ガイドラインの実施状況フォローにフェーズが移る。
- ・量販店へのイレギュラー対策（本部向け自動アラームメール）を導入（6月～）
- ・リサイクラー（野村興産イトムカ鉱業所）定期監査を実施（8月5日）
- ・サンプリング調査を実施（2月2日～3日）

<平成29年度の事業計画>

- ・本年同様の活動を計画。回収協力店数の伸びを修正。

(2) 器具委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・工業会規格SBA S 1602防犯ブザーの改正
- ・電池器具安全確保のための表示に関するガイドラインの改訂
- ・工業会規格SBA S 1601携帯電灯の改正内容の検討

<平成29年度の事業計画>

- ・BAJホームページの携帯電灯に関する内容の改訂
- ・工業会規格SBA S 1601携帯電灯の改正内容の検討
- ・携帯電灯の市場品の性能調査

(3) 資材委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・主要5材料の需要・供給・価格動向のまとめ
- ・関係団体（JOGMEC）との意見交換会の実施
- ・コンプライアンス遵守の取組み
（下請法等の違反事例の勉強・研究）

<平成29年度の事業計画>

- ・主要5材料の需要・供給・価格動向のまとめ
- ・関係団体との意見交換会の実施
- ・コンプライアンス遵守の取組み

(4) 消費者委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・有事発生時の乾電池及び携帯電灯供給対応のフォローアップ
- ・海外製ボタン電池の市場調査と水銀量の調査

<平成29年度の事業計画>

- ・有事発生時の乾電池及び携帯電灯供給対応のフォローアップ

(5) PL委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・電池重要クレーム情報のまとめ
- ・誤使用による事故の撲滅と製品安全文化の定着
- ・HP掲載「一次電池の安全で正しい使い方」の改訂
- ・電池事故事例（NITE事故速報など）の情報解析

<平成29年度の事業計画>

- ・電池重要クレーム情報のまとめ
- ・誤使用による事故の防止：HP掲載「一次電池の安全で正しい使い方」、小冊子「We LOVE DENCHI」の見直しなど
- ・電池事故事例の情報解析

(6) 技術委員会

<平成28年度の活動総括>

- JIS 規格原案作成
 - ・JIS C 8500（一次電池通則）、JIS C 8515（一次電池個別製品仕様）及びJIS C 8514（水溶液系一次電池の安全性）の改正審議
- IEC国際規格原案作成
 - ・IEC60086シリーズの改正審議
- IEC / TC35（一次電池専門委員会）幹事国業務の推進と国際会議等への参画
 - ・アトランタ会議（5月）、フランクフルト会議（10月）への参画など
- リチウム電池輸送規制対応およびリチウム一次電池関連の規格審議
 - ・IEC 62281（リチウム一次電池・二次電池の輸送安全規格）、IEC 60086-4（リチウム一次電池の安全性）の改正審議。SAE G-27の対応実施。
- リチウムコイン二次電池国際規格WG
 - ・IEC61960-4（コイン形リチウム二次性能規格）Ed.1のCD審議

6. リチウムコイン電池の誤飲事故対策
 - (1) 誤飲対策パッケージWG：ガイドラインを10月1日にホームページ上に掲載
 - (2) 誤飲対策セルWG：10月のANSI C18会議でNEMA、CPSC等へ説明を実施
7. IEC環境規格への対応
 - ・規格小委員会の中に環境規格WGを立ち上げ、11月から毎月のWG活動を開始

<平成29年度の事業計画>

1. JIS 規格原案作成
 - ・ JIS C 8500（一次電池通則）、JIS C 8515（一次電池個別製品仕様）及びJIS C 8514（水溶液系一次電池の安全性）の改正審議
2. IEC60086シリーズの改正審議
3. IEC / TC35 の那覇会議（4月）、ボストン会議（10月）への参画
 - ・ ANSI C18会議へオブザーバー参加：2017年6月、10月、2018年2月
4. リチウム電池輸送規制対応及びリチウム一次電池関連のUL、UN、ANSI規格等の審議
5. リチウムコイン二次電池国際規格WG：IEC61960-4のCDの修正・審議を継続。IEC/SC21AのPJメンバー会議（2017年6月:シカゴ、2018年3月頃:ソウル）へ参画。
6. リチウムコイン電池の誤飲事故対策
 - (1) パッケージWG：初版ガイドライン（10月発行）の修正や問合せ対応を適宜実施。
 - (2) セルWG：米国（ANSI会議）への対応を中心とし、医学的見地を含めた安全性、技術的な実現可能性の観点から、改善目標値の設定、提言を目指す。
7. IEC環境規格原案作成

NP案は、①なぜ電池の環境規格が必要？②規格の適用範囲は？③何を目的とするか、の意見あり。日本が主導するため、4月会議で納得性のある提案を行い、各国支持を目指す。

(7) 環境対応委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・水銀使用製品の情報提供に関する自主ガイドラインの策定
- ・情報提供自主ガイドライン事業者ヒアリングの対応
- ・海外無水銀アルカリ電池の安全性検証結果のまとめ
- 2月17日に電池工業会のホームページにて公開する

- ・水銀使用製品産業廃棄物指定に関する情報収集および環境省への申し入れ

<平成29年度の事業計画>

- ・ボタン電池に関する情報提供自主ガイドラインの実施と周知
- ・その他水銀法規制関係（ボタン電池の無水銀化動向のアップデートと政府への対応）

(8) 国際環境規制総合委員会

<平成28年度の活動総括>

- ・冊子「世界の電池環境規制の状況」（第9版）を6月に発行。
- ・地域別（欧州／北米／アジア／中南米）の環境規制状況アップデート。
- ・国際会議への参加（国際電池リサイクル会議ICBR-9/14～16 ベルギー、アントワープー及び三極電池専門家会議TWG-10/20米国、ワシントンー）。
- ・施設見学（11/1 直島環境センター、三菱マテリアル）を実施。

<平成29年度の事業計画>

- ・各国環境規制・リサイクル状況調査と対応
- ・環境関連国際会議への参加（国際電池リサイクル会議ICBR-9/20～22ポルトガル、リスボンー）
- ・アジア地区での環境法規制、回収・リサイクルを視察。
- ・冊子「世界の電池環境規制状況」（第9版）の追補電子版を5月に発行。
- ・リサイクル工場視察の実施

(9) 広報総合委員会

<平成28年度の活動総括>

- * キャンペーン・PR活動
 - ・HP、一般紙などで「電池の安全で正しい使い方」、「電池月間」などのPRを展開
 - ・手づくり乾電池教室：開催場所を昨年の29か所から37か所にアップ
 - ・みらいの電池アイデアコンテストの実施
- * 情報発信関係
 - ・HP、ポスターなどの改訂や新規作成、啓発資料冊子「We LOVE DENCHI」の改訂
- * 出典、開催行事
 - ・でんちフェスタ：8/27鹿児島市立科学館、

11/2日本科学未来館で開催

- ・プロ野球最優秀バッテリー賞の開催・運営の協力

<平成29年度の事業計画>

*キャンペーン・PR活動

- ・HP、一般紙などで「電池の安全で正しい使い方」、「電池月間」などのPRを展開
- ・手づくり乾電池教室の開催、「エネルギー体験

教室」試験的に導入

- ・みらいの電池アイデアコンテストの実施

*情報発信関係

- ・HP、ポスターなどの改訂、啓発資料冊子「We LOVE DENCHI」の改訂

*出典、開催行事

- ・でんちフェスタ：8/26鹿児島市立科学館、12/2こども未来創造館で開催予定

風力発電所と蓄電池システムの (出力変動緩和システム) 見学会・意見交換会

環境問題とエネルギー問題への対応のため、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーの導入拡大の取組みがなされています。しかしながら、この再生可能エネルギー、例えば風力発電では風の強さや風の向きなどの変化により、発電機の出力が変動してしまうため使いづらいという問題があり、導入拡大が進まない原因の一つとされています。

普及促進委員会 大形カスタムWGでは、風力発電に蓄電池システムを併設することで、出力変動を抑制し、電力系統への接続性を改善することにより、風力発電の導入量の増大に寄与できるのではないかと考え、風力発電における蓄電池の利用のあり方に関する調査・検討等の活動を行っています。

この活動の一環として、風力発電事業を営んでおられる北海道寿都（すっつ）町を平成28年10月初めに訪問し、風力発電所（風太風力発電所）の見学と意見交換をさせていただきました。



北海道寿都町

寿都町は北海道南西部の日本海側に位置し、しらす、かき、ほっけなど海の幸を特産品とする人口3,100人程の町です。寿都町は年間を通じて風の強い日が多く、住民にとっては厳しい気候ですが、風力発電には適した地域です。

寿都町は、「風力に係る地域エネルギー開発利用モデル事業」に採択され、平成元年に運転を開始して以降、その後の「地域新エネルギー等導入促進事業」にも採択され、現在まで5期にわたり増設を行い、現在は発電機11基で1万6580kWの発電を行っております。尚、5期目の「風太風力発電所：2,300kW×2基」を増設された際には、蓄電池システムを併設導入されました。

“風太風力発電所”の概要

- ・定格出力：14,550kW
(1,990kW×5基、2,300kW×2基)
- ・製造メーカー：エネルギーコン社（ドイツ）
- ・タワー高さ：64m
- ・ローター直径：71m
- ・発電開始風速：2.5m/s
- ・発電中止風速：25m/s
- ・年間発電量（計画）：33,754,000kWh
- ・蓄電池設備：1,500Ah・576V（4並列）
(蓄電電気量：3,456kWh)
- ・運転開始：H19年10月（H23年12月増設）

風太風力発電所見学に先立ち、寿都町町役場にて風力発電事業を担当しておられる産業振興課のご担当から寿都町での風力発電の取り組みについて、説

明を受けた後、風力発電と蓄電池システムに関しての意見交換を行いました。



風太風力発電所の発電機
(2,300kW/基)



蓄電池システム建屋と大形カスタムWG参加メンバー



蓄電池設備 (鉛蓄電池)

寿都町からは、「町財政に寄与する売電収入を得ている」、「系統連系が困難で発電拡大ができない」、「蓄電池システムは変動緩和に効果があり有用と認識している」、「蓄電池の性能（出力特性）を向上させればさらに良好で効率のよい運転ができる」、「蓄電池のコストが高く導入が困難である」、「電力会社から要求される出力変動への対応は風向による出力制御を行っていて加えて手動での制御を行う場合もある」など風力発電に関する現場の実際情報をいただくとともに、蓄電池システム併設に関して率直な意見交換が行えました。

今後、大形カスタムWGでは、今回の経験などを活かし、蓄電池システムとりわけ大形カスタム品の普及促進に努めてゆく所存です。

(普及促進委員会 大形カスタムWG)

平成29年度 蓄電池設備整備資格者講習のご案内

(一社)電池工業会では、蓄電池設備に関する専門的な知識・技能を習得し、蓄電池設備整備資格者の資格を取得するための講習を行っている。平成29年度は、以下の日程で開催される。

実施地	実施月日 (定員)	講習会場	申請書提出先	申請受付期間 (申請方法)
北海道	6月22日(木) 6月23日(金) (66名)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3-1 TEL:011-261-6218	一般社団法人 北海道消防設備協会 〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目1-4 三井生命札幌共同ビル3階 TEL:011-205-5951	5月10日(水) 〃 5月25日(木) (郵送又は持参)
宮城県	7月3日(月) 7月4日(火) (100名)	宮城県管工工会館 仙台市青葉区本町3-5-22 TEL:022-262-6701	一般社団法人 宮城県消防設備協会 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-5-22 宮城県管工工会館2階 TEL:022-223-3650	5月22日(月) 〃 6月2日(金) (郵送又は持参)
東京都	8月9日(水) 8月10日(木) (240名)	連合会館 千代田区神田駿河台3-2-11 TEL:03-3253-1771	一般社団法人 電池工業会 〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 TEL:03-3434-0261	5月29日(月) 〃 6月14日(水) (郵送又は持参)
愛知県	8月24日(木) 8月25日(金) (150名)	ウィルあいち (愛知県女性総合センター) 名古屋市中区上野杉町1番地 TEL:052-962-2511	一般財団法人 愛知県消防設備安全協会 〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1 愛知県東大手庁舎6階 TEL:052-962-0707	6月22日(木) 〃 6月26日(月) (郵送又は持参)
茨城県	8月31日(木) 9月1日(金) (80名)	茨城県建設技術研修センター 水戸市青柳町4193番地 TEL:029-228-3881	一般社団法人 茨城県消防設備協会 〒310-0063 水戸市五軒町1-4-19 茨城県酒造会館内 TEL:029-226-9611	6月19日(月) 〃 7月7日(金) (郵送又は持参)
新潟県	9月14日(木) 9月15日(金) (120名)	新潟ユニゾンプラザ 新潟市中央区上所2-2-2 TEL:025-281-5511	一般財団法人 新潟県消防設備協会 〒950-0965 新潟市中央区新光町10-3 技術士センタービルⅡ2階 TEL:025-284-2420	7月13日(木) 〃 7月27日(木) (郵送又は持参)
大阪府	9月28日(木) 9月29日(金) (200名)	たかつガーデン (大阪府教育会館) 大阪市天王寺区東高津町7-11 TEL:06-6768-3911	一般財団法人 大阪府消防防災協会 〒540-0032 大阪府大阪市中央区天満橋京町2-13 ワキタ天満橋ビル4階 TEL:06-6943-7654	8月17日(木) 〃 8月28日(月) (郵送又は持参)
徳島県	11月9日(木) 11月10日(金) (50名)	徳島県JA会館 徳島市北佐古一番町5-12 TEL:088-634-2663	一般財団法人 徳島県消防設備協会 〒770-0873 徳島市東沖洲2-14 沖洲マリンターミナルビル1階 TEL:088-679-8351	9月12日(火) 〃 10月4日(水) (郵送又は持参)
神奈川県	11月30日(木) 12月1日(金) (130名)	神奈川県電気工工会館 横浜市中区三吉町4-1 TEL:045-251-4671	一般財団法人 神奈川県消防設備安全協会 〒231-0023 横浜市中区山下町1番 シルクセンター4階408号室 TEL:045-201-1908	10月10日(火) 〃 10月13日(金) (郵送又は持参)
高知県	12月12日(火) 12月13日(水) (50名)	高知城ホール 高知市丸ノ内2-1-10 TEL:088-822-2035	一般社団法人 高知県消防設備協会 〒780-0850 高知市丸ノ内2-5-14 田本ビル3階 TEL:088-820-7330	11月1日(水) 〃 11月17日(金) (郵送又は持参)
福岡県	平成30年 1月29日(月) 1月30日(火) (200名)	福岡県自治会館 福岡市博多区千代4-1-27 TEL:092-651-4284	一般財団法人 福岡県消防設備安全協会 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-1-10 セレス赤坂門ビル5階 TEL:092-722-1265	12月4日(月) 〃 12月22日(金) (郵送又は持参)

(注) 定員になり次第締め切るので、申請受付期間内に早めに申請のこと。

【問い合わせ先】 一般社団法人電池工業会 (〒105-0011東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内、TEL 03-3434-0261)

平成29年 2月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	15日(水)	第207回 講習実施委員会	福岡県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	21日(火)	統計総合委員会	統計業務の定期的見直しおよび監査報告。
	23日(木)	広報総合委員会	2017年度の活動概要、HPの修正、小冊子の修正、他。
二次電池部会	3日(金)	自動車鉛分科会	JISD5301審議、IEC規格審議、SBA規格審議。
	9日(木)	JIS C8704 ワーキンググループ	JIS規格改正審議。
	10日(金)	環境委員会	REACH対応、委員会規定の審議、他。
	16日(木)	産業用電池技術サービス分科会	蓄電池整備資格者講習テキスト見直し、他。
	16日(木)	二次電池部会	各委員会からの事業報告および事業計画・予算案の審議。
	17日(金)	用語分科会	SBA S 0402/0406の改正審議、他。
	17日(金)	充電器分科会	分科会資料-09、-05の改正審議、蓄電池設備整備資格者講習テキストの見直し。
	22日(水)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定変更申請の状況審議、他。
	23日(木)	小形鉛分科会	IEC規格改正審議、SBA規格改正審議、他。
24日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0803規格改正審議、他。	
二次電池第2部会	2日(木)	車載LIBワーキンググループ	非駆動用LIBのIEC規格策定。
	3日(金)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報収集と分析方法。
	3日(金)	工場環境委員会	省エネ状況、ISO14001更新審査等の情報交換。
	9日(木)	蓄電システムワーキンググループ	建築設備計画基準、建築設備設計基準の検討。
	10日(金)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応。
	10日(金)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	13日(月)	大形カスタムワーキンググループ	大形蓄電システムの普及促進検討。
	14日(火)	留置LIB分科会	IEC規格の検討。
	16日(木)	リチウム二次分科会	JIS C 8711及びJIS C 8712の改定検討。
	17日(金)	法規ワーキンググループ	蓄電池設備整備資格者講習テキスト検討。
	20日(月)	二次電池第2部会	各委員会からの活動報告および活動計画。
	23日(木)	普及促進委員会	蓄電システムの普及促進検討。
	27日(月)	産業用ニッケル水素分科会	IEC規格の検討。
	27日(月)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応。
	28日(火)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討。
一次電池部会	7日(火)	環境規格ワーキンググループ	35/1366/NPに関する審議(ANSI前打合せの提案内容検討)。
	13日(月)	リチウム小委員会	IEC規格検討(フランクフルト会議のアクションアイテムフォロー)。 リチウム電池輸送規制対応。2017年度年間活動計画確認。
	14日(火)	リチウムコイン二次電池 国際規格ワーキンググループ	IEC61960-4 CDコメント審議。
	14日(火)	技術委員会	小委員会の平成28年度活動報告及び平成29年度活動計画審議。
	15日(水)	一次電池部会	各委員会からの活動報告および活動計画。
	15日(水)	規格小委員会	IEC60086シリーズ検討。JIS C 8514改正審議。平成29年度計画、他。
	22日(水)	誤飲対策セルワーキンググループ	生体試験結果と次回テストの確認。評価手法のまとめ方の検討。

12月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2016年12月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	433,782	78,105	101%	96%	4,620,316	839,369	107%	104%
一次電池計	266,650	10,056	99%	94%	2,767,763	98,693	102%	100%
酸化銀電池	60,696	1,007	103%	94%	771,484	12,919	93%	88%
アルカリ乾電池計	122,333	5,684	95%	89%	1,051,668	48,456	106%	105%
単 三	63,501	2,461	98%	93%	566,203	22,018	109%	108%
単 四	40,495	1,622	97%	91%	328,716	13,438	105%	106%
その他	18,337	1,601	81%	82%	156,749	13,000	97%	101%
リチウム電池	83,621	3,365	104%	101%	944,611	37,318	106%	99%
二次電池計	167,132	68,049	105%	96%	1,852,553	740,676	116%	104%
鉛電池計	3,316	18,450	102%	104%	31,492	175,189	101%	102%
自動車用	2,669	12,362	102%	101%	23,855	109,938	101%	101%
その他の鉛蓄電池	647	6,088	106%	110%	7,637	65,251	99%	103%
アルカリ蓄電池計	51,746	14,995	118%	98%	543,955	180,251	103%	102%
ニッケル水素	46,609	13,963	121%	98%	478,210	167,785	110%	105%
その他のアルカリ蓄電池	5,137	1,032	95%	95%	65,745	12,466	70%	76%
リチウムイオン蓄電池計	112,070	34,604	100%	92%	1,277,106	385,236	124%	107%
車載用	59,892	21,674	110%	96%	644,004	236,082	143%	117%
その他	52,178	12,930	91%	85%	633,102	149,154	109%	94%

12月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2016年12月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	244,050	48,797	112%	108%	2,659,427	472,362	115%	104%
一次電池計	106,461	2,788	113%	103%	1,159,128	29,010	105%	95%
マンガン	0	0	67%	11%	2	19	2%	31%
アルカリ	2,207	44	118%	74%	46,893	804	181%	119%
酸化銀	50,539	630	116%	111%	528,728	6,172	98%	87%
リチウム	53,715	2,097	110%	108%	582,170	21,445	109%	100%
空気亜鉛	0	0	0%	26%	974	12	120%	103%
その他の一次	0	15	168%	13%	361	557	88%	50%
二次電池計	137,589	46,009	111%	108%	1,500,299	443,352	124%	104%
鉛蓄電池	192	1,424	106%	116%	2,068	13,601	97%	101%
ニカド	2,728	236	84%	76%	36,218	3,007	56%	51%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	53%	34%
ニッケル水素	18,429	8,704	137%	123%	177,601	73,327	122%	112%
リチウムイオン	107,208	28,125	105%	105%	1,196,537	283,952	124%	115%
その他の二次	9,031	7,519	197%	107%	87,875	69,464	259%	74%
全電池合計（輸 入）	135,386	16,046	97%	104%	1,427,942	155,737	100%	99%
一次電池計	127,202	2,212	97%	104%	1,335,872	21,515	100%	88%
マンガン	14,108	170	106%	97%	172,875	1,834	120%	91%
アルカリボタン	2,825	17	—	—	35,575	264	—	—
アルカリその他	92,423	1,218	—	—	913,253	12,181	—	—
酸化銀	434	11	151%	133%	2,962	78	95%	84%
リチウム	11,080	437	103%	109%	144,063	5,484	102%	88%
空気亜鉛	6,325	117	132%	148%	66,980	1,105	121%	103%
その他の一次	7	242	152%	5727%	164	569	37%	91%
二次電池計	8,184	13,834	94%	104%	92,070	134,222	99%	101%
鉛蓄電池	707	3,172	103%	101%	7,608	32,705	99%	98%
ニカド	46	182	84%	116%	1,026	1,741	85%	83%
ニッケル鉄	0	0	—	—	1	1	760%	172%
ニッケル水素	2,049	433	83%	72%	23,436	5,080	102%	83%
リチウムイオン	5,288	8,785	109%	108%	57,167	81,478	113%	106%
その他の二次	94	1,262	15%	104%	2,832	13,216	28%	87%